

# 1 職域コホートにおける動脈硬化危険因子の長期追跡研究

研究代表者名：河野宏明<sup>1</sup>

共同研究者名：小川久雄<sup>1</sup>、中山茂樹<sup>2</sup>、副島弘文<sup>1</sup>、藤井裕己<sup>3</sup>、木庭郁朗<sup>4</sup>、丸林 徹<sup>5</sup>

施設名：熊本大学医学部附属病院・循環器内科<sup>1</sup>、熊本厚生農協診療所<sup>2</sup>、NTT西日本九州病院<sup>3</sup>、熊本ヘルスケアセンター<sup>4</sup>、日赤健康管理センター<sup>5</sup>

生活習慣の欧米化と人口の高齢化に伴い、虚血性心疾患や脳血管障害を含む動脈硬化性疾患が増加し、大きな社会問題となっている。欧米における動脈硬化性疾患発症に対する危険因子の大規模研究の報告はあるが、わが国での同様の研究に対する報告はほとんど無く、わが国における危険因子を検討することは、日本人の動脈硬化性疾患予防の観点から重要であると考えられる。

現在、我々は熊本県内の健診機関と共同で動脈硬化危険因子と動脈硬化性疾患との関係についての研究を実施している。また、熊本県内の基幹病院と共同で急性心筋梗塞についての研究も実施している。

急性心筋梗塞患者連続 1,925 名（平均年齢 67.7 歳、男性 1,350 名、女性 575 名）と性、年齢を一致させた健康診断受診者 3,067 名を対象とし、case control study を実施した。その結果、最も急性心筋梗塞発症に影響を与えたのは、高血圧が一位で odds 比 4.8 倍、次いで糖尿病 3.43 倍、喫煙 3.39 倍の順となり、高コレステロール血症は 5 番目で odds 比 1.28 倍、肥満は 6 番目であり odds 比 1.12 倍であり、欧米の結果とは異なっていた。男女別に分けてみると、男性は高血圧、喫煙、糖尿病の順であり、odds 比もそれぞれ 4.8、4.0、2.9 倍であった。一方、女性では、喫煙、糖尿病、高血圧の順であり、odds 比もそれぞれ 8.2、6.1、5.0 倍であった。我が国における急性心筋梗塞に対する危険因子で最も重要なのは、欧米とは異なり高血圧である。次いで、糖尿病、喫煙が重要である。したがって、急性心筋梗塞の予防にはこれらの危険因子への介入が必要である。さらに、危険因子には男女差が存在する。特に女性では、喫煙と、糖尿病が重要な危険因子であり、しかも odds 比も高値である。女性は虚血性心疾患に罹患しにくいことが知られているが、これらの危険因子を持つ女性は注意が必要であるとともに、閉経前の若い時期から禁煙の徹底など生活習慣の指導が重要であると思われる。本年度以降は、動脈硬化性疾患の発症とその危険因子との関係について登録を行った症例を前向きに検討するとともに、栄養調査、運動調査との関係を調べ、生活習慣とこれら危険因子との関係を調査したい。